

科目コード	13100	区 分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	フレッシュマンセミナー	担当者名	平林 大輔、簀戸 崇史、 福井 悠紀子	○					
		実務経験との関連	担当者の中で、柔道整復師、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することができるようになる。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

### <教科書>

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日）スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版東洋館出版社  
特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	第3回大学生のための非認知能力	非認知能力の伸ばし方
6	文章力検定	文章力検定3級
7	メンター講話 1	メンター講話1
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	学科長講話	学科長講話
11	スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定1
12	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
13	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
14	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
15	第4回非認知能力の伸ばし方	社会人になった自分を描く
16	野外活動	野外活動1
17	体育会	体育会メンバー決め
18	野外活動	野外活動2
19	野外活動	野外活動3
20	野外活動	野外活動4
21	野外活動	野外活動5
22	野外活動	野外活動6
23	野外活動	野外活動7
24	野外活動	野外活動8
25	野外活動	野外活動9
26	文章力検定	文章力検定試験
27	第5回非認知能力の伸ばし方	1年生の自分と2年生の自分
28	総括	学年末集会

科目コード	13100	区 分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目
授業科目名	フレッシュマンセミナー	担当者名	江波戸 智希、宮本 彩 伊藤 亮輔、品田 直宏 小村 淳、山本 清人 矢野 智彦	○
		実務経験との関連	担当者の中で、高等学校教員、実業団選手としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。	
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数 2.00 授業方法 講義 卒業要件 必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

下記三つの能力を身に付けることができる。YnYn①IPU生としての考え方・態度を身につけるYn②前進力を身につけるYn③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

### <授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。Ynグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。Yn課題として基礎学力教材を取り組んでいく

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表） 40%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話Yn（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：Yn第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：Yn第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：Yn第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	”中山芳一先生：Yn第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8
25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト

科目コード	13100		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	仙波 慎平、小川 雄太 戸田 晃大、岩田 知郎 佐藤 伸之、堀川 峻 眞鍋 芳江			○		
			実務経験との関連	担当者の中で、高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50% (レポート・基礎学力課題)、課題② (発表等) 20%

### <教科書>

吉原 恵子 (著), 間瀬 泰尚 (著), 富江 英俊 (著), 小針 誠 (著) (2017/10/10) スタディスキルズ・トレーニング 改訂版: 大学で学ぶための25のスキル実教出版

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分

科目コード	13100	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	フレッシュマンセミナー	担当者名	小川 雄太	○					
		実務経験との関連	担当者の中で、教育委員会、高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間をどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

### <授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通してYn①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。Yn②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。Yn③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

### <授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

### <教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10）スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル実教出版

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ

科目コード	13100	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	フレッシュマンセミナー	担当者名	島中 要輔、竹下 厚志 中安 翼、羽田 あずさ 渡邊 亮、四宮 貴久、 小澤 尚子	○					
		実務経験との関連	担当者の中で、アナウンサー、高等学校教員、小学校教員、舞台俳優としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、大学4年間の学びと将来の進路を主体的に設計するための基礎力を養う初年次教育科目である。講話、グループワーク、校外活動等を通して、認知能力（読解力・記述力等）と非認知能力（主体性・協働性・自己管理能力等）の双方を育成する。さらに、スクールフェスや教育現場での体験活動を通して、社会人として求められる資質・態度を理解し、自己の将来像を具体的に描くことを目指す。

### <授業の到達目標>

①講話内容を整理し、自分の考えを文章で表現できる  
②他者の意見を傾聴し、適切に自分の意見を発言できる  
③学習習慣や時間管理を実践し、自己管理ができる  
④大学生として求められる基礎的な学力を活用できる  
⑤自己の特性や価値観を分析し、将来の進路を具体的に説明できる  
⑥社会で求められる資質・能力を理解し、自らの行動に反映できる

### <授業の方法>

講義（学内外講師による講話）、グループワーク、ディスカッション、発表、校外活動（教育現場見学・体験活動）を組み合わせ実施する。各回では講話内容の要約および振り返りを行い、学びを言語化することで理解の定着を図る

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（講話への取り組み、ディスカッション参加、提出状況）40%  
振り返りレポート（内容の理解度・論理性・自己の考察）40%  
実践活動（校外活動・スクールフェス等への参加および振り返り）20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講義	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分

科目コード	13100		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	宮原 舞 高崎 展好 橘高 真紀子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で、高等学校教員、専門学校教員、幼稚園教諭としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学生生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。授業では、ゲストスピーカーによる講話や実習報告会に加え、基礎ゼミナールと連動した体験活動（自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等）を振り返り、自己の学びとして整理することを重視する。これらを通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、自身の将来像を描きながら主体的に進路を考え、適切な進路決定を行うための土台を築く。

### <授業の到達目標>

①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

### <授業の方法>

講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40% 目標設定・振り返り 10% 課題（レポート等）50%

### <教科書>

文部科学省幼稚園教育要領解説（平成30年3月）フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）フレーベル館

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回 大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回 社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める
21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る
22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑪	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回 1年の自分と2年の自分

科目コード	13100		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	フレッシュマンセミナー		担当者名	宇都宮 浩司、江口 尚文 古松 丈周、大平 真紀子 赤木 邦江、北村 和久 平岡 師玄哉、溝越 隆興			○		
			実務経験との関連	担当者の中で、スポーツ系一般企業経験者、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つけ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

### <授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。
2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。
3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。
4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

### <授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内化を促す。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30% レポートなどの課題への取り組み・・・50% 発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。
6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。

9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。

科目コード	13100	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	フレッシュマンセミナー	担当者名	岡田 健志	○					
		実務経験との関連	情報系一般企業経験者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ルーブリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つけ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

### <授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。
2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。
3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。
4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

### <授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史のおよび文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。
6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。

10	社会人-4.0と五訓	<p>これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。</p>
11	常識を相対化する	<p>世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。</p>
12	講話③	<p>学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。</p>
13	学科交流会	<p>日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。</p>
14	【学期末集会】	<p>学期末集会を通じて、自らの現時点までの学びの振り返りと今後の学習生活プランを再設計する。</p>

科目コード	13200	区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生	担当者名	宇都宮 浩司、岡田 健志 江口 尚文、古松 丈周			○			
		実務経験との関連	担当者の中で、情報系一般企業経験者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第3・第4クオーター	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業は、前半のフレッシュマンセミナーで学んだ社会人としての基礎的リテラシーおよび価値観を踏まえ、学生一人ひとりが自らのキャリアを主体的に構想し、意思決定できる力を養うことを目的とする。現代社会においては、職業選択が一度きりのものではなく、変化する環境の中で継続的に見直されるプロセスであることが求められている。そのため、本授業では特定の職業選択に直結する知識の習得ではなく、自己理解、社会理解、意思決定のプロセスを重視する。具体的には、自己の価値観、興味、強みといった内的要因を明確にするとともに、業界・職種・働き方といった外的要因についての理解を深める。その上で、両者を接続しながら、自らのキャリアの方向性を検討する。また、情報収集、比較検討、意思決定、行動計画といった一連のプロセスを段階的に学び、実践的に活用できるようにする。さらに、本授業では、キャリアを固定的なものとして捉えるのではなく、試行錯誤を通じて更新していく動的なものとして理解する視点を養う。ワークやディスカッション、外部講師の講話を通じて、多様なキャリアのあり方に触れ、自らの将来像を柔軟に再構築する力を身につけることを目指す。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

### <授業の到達目標>

- 自身の価値観や興味、強みを整理し、言語化できる。
- 社会や職業に関する基本的な情報を収集・整理し、比較検討できる。
- 複数の選択肢の中から自らの判断基準に基づいて意思決定できる。
- キャリア形成を継続的なプロセスとして捉え、行動計画を立案できる。

### <授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ルーブリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30% レポートなどの課題への取り組み・・・50% 発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

### <教科書>

使用しない。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会人-3.5と現在地の確認	社会人の準備段階として0.5年が経過した今、何が身につく、何が課題として残っているかを整理する。また夏季休暇での日常生活の中の学びを言語化する。
2	キャリアとは何か	キャリアを単なる職業選択ではなく、人生全体に関わる意思決定の連続として捉え直す。現代社会におけるキャリアの多様性や不確実性を踏まえ、主体的に選択することの重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	自己理解① 価値観の構造	意思決定の基準となる価値観について整理し、自身が何を重視するのかを明確にする。具体的な場面を想定しながら、価値観が選択に与える影響を考察する。
5	自己理解② 強みと経験の分析	過去の経験を振り返りながら、自身の強みや特性を抽出する。それらがどのような場面で発揮されるかを分析し、自己理解を深化させる。
6	自己理解と五訓（スピーチ）	自身の価値観や強みをIPU五訓と関連づけて整理し、スピーチ原稿を下書き・清書の段階を迫って作成する。
7	社会理解① 業界・職種の構造	社会における業界および職種の基本構造を理解し、それぞれの役割や特徴を整理する。自らの関心との接点を見出すことを目指す。
8	社会理解② 働き方とキャリアの多様性	多様な働き方について理解し、それぞれの特徴や利点・課題を比較検討する。働き方と価値観の関係について考察する。
9	スピーチ大会	各クラスでの予選を勝ち抜いたクラス代表によるスピーチ大会を行う。発表者以外は、どのような点を評価すべきかについて自ら考え、レポートする。
10	意思決定の方法	キャリア選択における意思決定の基本的な方法を学ぶ。複数の選択肢を比較し、自らの判断基準に基づいて選択するプロセスを理解する。
11	情報収集と比較検討	キャリアに関する情報の収集方法とその評価の仕方を学ぶ。信頼性のある情報を見極め、適切に活用する力を養う。
12	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	キャリア仮説の構築	自己理解と社会理解を統合し、自分なりのキャリアの方向性を仮説として設定する。複数の可能性を視野に入れながら整理する。
14	行動計画と今後の学修設計	キャリア仮説に基づき、今後の具体的な行動計画を立案する。短期的な目標と長期的な展望を結びつけ、継続的な成長に向けた学修の方向性を明確にする。

科目コード	13200		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント BC2026年度生		担当者名	大平 真紀子、赤木 邦江 平岡 師玄哉、北村 和久 溝越 隆興			○		
			実務経験との関連	担当者の中で、スポーツ系一般企業経験者、専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

### <授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用的学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。
5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。

11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クォーターおよび第2クォーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラス&nプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。

科目コード	13200	区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント	担当者名	田中 耕作、保科 圭汰 秦 啓一郎、佐々木 史之 吉岡 利貢、金谷 和幸			○			
		実務経験との関連	担当者の中で専門学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

### <授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

### <授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）
2. グループワーク
3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%、課題レポート（課題、発表）40%

### <教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエンティスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後学期期末集会

科目コード	13200		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	高橋 章二、濱嶋 幸司 三堀 仁、中家 淳悟 伊藤 仁美、西田 修斗 大久保 諒、鈺 悠介			○		
			実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%  
レポート課題 70%  
必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	3年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談2	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談4	環トレ進捗状況の確認
7	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力を語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談5	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える 環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修 研修テーマ未定
18	3志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての3志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談6	環トレ進捗状況の確認・助言
20	3年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	3年生受験対策	3年生受験対策 教職支援室 教員採用試験3年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	4年生受験対策について	4年生受験対策 教職支援室 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ

25	個別面談7	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	

科目コード	13200	区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント	担当者名	小崎 遼介、虫明 淑子			○			
		実務経験との関連	幼稚園教員、専門学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 80%、授業への取り組み20%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・2年生の行事、実習を確認し、3、4年生について考える
3	スケジュール管理	・ゲストを招いて「マイナビ：スケジュール管理」を実施する。
4	社会人基礎力	マイナビでの社会人基礎力を受講する。
5	社会人としての“当然”を学ぼう	社会人基礎力について考える
6	社会人（保育教諭）としての“当然”を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
7	次回の観察のテーマを考える	東岡山IPUこども園での観察のテーマについて検討する。
8	社会人（保育教諭）としての“当然”を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
9	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
10	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
11	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
12	社会人基礎力	秘書検定2級に取り組む
13	プレゼン準備	クラスで発表
14	前期のまとめ	前期の活動について振り返りを行う。
15	マイナビMATCHplus	・マイナビMATCHplusを行い3年生に向けての取り組みを考える
16	体育祭種目極め	体育祭に関する準備を行う。
17	進路決定	公務員・教員・企業3志会について
18	進路と東岡山IPUこども園	各進路ごとに分かれて東岡山IPUこども園での観察のポイントを検討する。
19	講話	学内の内定者による講話を行う。
20	東岡山IPUこども園観察1)	東岡山IPUこども園を個人で観察する
21	東岡山IPUこども園観察2)	東岡山IPUこども園にてグループで観察する
22	東岡山IPUこども園観察	東岡山IPUこども園にてそれぞれ観点をこれまでのものと関連させ観察する
23	ゲスト講話	池江先生による講話
24	ゲスト講話	辻井先生による講話
25	東岡山IPUこども園	講話の内容を踏まえて東岡山IPUこども園での観察を行う。
26	役員講話	役員講話により、自身の目標設定、夢、挑戦、達成について考える
27	年間の振り返り	年間の振り返りをクラスで行う。
28	まとめ	2年生のまとめと3年生への引き継ぎ

科目コード	13200		区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	伊藤 三千雄、藤谷 かおる 梶谷 亮輔、國友 亮佑 片桐 夏海、十河 直太 早田 剛			○		
			実務経験との関連						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

### <授業の到達目標>

1. 自己の価値観・強み・興味関心を整理し、言語化できる。
2. 社会・職業に関する情報を収集し、自身の進路と関連付けて説明できる。
3. 自分の考えや経験をプレゼンテーションや文章で表現できる。
4. エントリーシート・履歴書作成や面接に向けた基礎的準備ができる。
5. 将来のキャリア目標を設定し、具体的な行動計画を立てることができる。

### <授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話)
2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ)
3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表)
4. 基礎学力課題に取り組む

### <成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

### <教科書>

特になし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り

科目コード	13200		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアディベロップメント		担当者名	河野 儀久 畑島 紀昭 坂本 賢広			○		
			実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

### <授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。 ¥nまた、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。 ②前進力（積極性）を身につける。 ③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

### <授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話） 2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30% ¥nレポート課題 50% ¥n基礎学力課題 20% ¥n ¥n必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

### <教科書>

吉原恵子他スタディスキルズ・トレーニング実務出版

### <参考書>

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構 ¥n2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版出版社 東洋館出版社

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	クラス紹介 ¥n2年生前期時点でのキャリアについて ¥nキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介 ¥n 前期授業内容の理解 ¥n 自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生の心構え） ¥n柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について ¥n スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
8	大学役職者講和	・大学卒柔道整復師の役割について
9	柔道整復学の復習⑤	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
15	前期振り返り ¥n文章力検定模擬試験	・前期に実施した内容の確認 ¥n キャリア形成に向けた自己分析②
16	後期ガイダンス ¥n2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインする ¥nキャリア形成に向けた自己分析③	・後期授業内容の理解 ¥n 自身のキャリアについて考える

17	スポーツ医学検定2級対策①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
18	中山芳一先生講和①	・社会人になった自分を描く
19	スポーツ医学検定2級対策②	・身体の知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
20	スポーツ医学検定2級対策③	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
21	スポーツ医学検定2級対策④	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・スポーツ医学検定2級試験実施
25	文章力検定対策①	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する

科目コード	14002		区 分	教 養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅠ [企業]		担当者名	佐藤 典子、眞鍋 芳江、鈴木 真理子、濱嶋 幸司、橘高 真紀子、伊藤 亮輔			○		
			実務経験との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインⅠは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

### <授業の到達目標>

自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

### <授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、50分授業を2回実施したり、オンデマンドを活用したりすることで、小規模な討論ができるように工夫する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60%、提出物 40%。フィードバックとして、行動目標の中から代表的なものを全体で共有することがある。

### <教科書>

適宜配布物を提供する。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス ① シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介	前期の授業内容の紹介ならびにキャリア支援や就活基礎知識、翔志会についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは ¥nB. 就職活動の支援環境を把握する	外的・内的キャリアについて理論的に学ぶ。就職情報サイト登録やインターンシップについての説明など。
3	教員パネルディスカッション	本授業の各学科担当教員が各自のキャリアデザインについて振り返り、講話をする。
4	自己理解	キャリアアンカーを理論的に理解して、自分の就職活動における軸を探す。
5	A. 自己理解¥nB. 業界研究セミナー	ジョハリの窓のワークやIPUの先輩たちの就活体験から学ぶ。
6	A. 業界研究・企業研究¥nB. ライフ・プランニング（オンデマンドFE/FC/BC）	業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
7	A. ライフ・プランニング（オンデマンドPP） ¥nB. 業界研究・企業研究	先週の逆のグループ構成で対面とオンデマンドになる。業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
8	A. 大手を目指そう！①¥nB. 就職支援会社の活用について	金融業界（銀行・証券会社）を目指す業界特化セミナーで外部講師を招聘する。
9	A. 大手を目指そう！②¥nB. ビジネスマナー	外資・空港・ホテルを目指す学生に特化する。就職活動におけるビジネスマナーについて学ぶ。
10	A. 人生をデザインする¥nB. ガクチカ、自己PR作成	ライフライン・チャートを作成し、未来の自分にインタビューする。ガクチカのない学生は夏休みの過ごし方を考える。
11	A. 就職活動ワーク ¥nB. 自己分析（オンデマンドFE/FC/BC）	企業もしくは4年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。
12	A. 自己分析（オンデマンドPP） ¥nB. 就職活動ワーク	企業もしくは4年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。
13	A. 就職活動最前線！ ¥nB. SPI対策	4年生によるパネルディスカッションの後、適正検査について知る。夏休みに対策することを決める。
14	A. SMART目標¥nB. 前期キャリアデザイン総括	目標設定力の強化。前期の振り返りで提出物やインターンシップ申し込みの確認ならびに授業評価をする。

科目コード	14002	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアデザイン I [公務員]	担当者名	森 利治	○					
		実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

このキャリアデザイン I（公務員）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取り組む姿勢を養い、後期から始まる試験勉強に向けて覚悟を決めさせていく。

### <授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

### <授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析と自己PR）

科目コード	14002	区 分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアデザイン I [幼保]	担当者名	檜 寄 日佳、高崎 展好 三好 啓子、宮原 舞	○					
		実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

キャリアデザイン I [幼保] は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

#### <授業の到達目標>

① 保育職を志望する理由を整理し、自らの言葉で具体的に説明することができる。② 保育職に必要とされる資質や能力を理解し、自身の強みや課題として整理することができる。③ 自己分析を通して自己理解を深め、将来の進路や生き方について具体的に表現することができる。

#### <授業の方法>

・ 講話を通して、課題の提示や説明及び課題についてのグループワーク④ 自己課題に応じたピアノ実技⑤ 課題についての演習

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、試験30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見通し	授業の目的・意義・概要④児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）④	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	進路の選択	公立園と私立園の違い、先輩の講話
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	社会人のマナー	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞、言葉遣い
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
12	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌い（6）
13	前期のまとめ	前期学びの振り返り④長期休業期間の就職活動について
14	ピアノ実技（7）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ

科目コード	14002		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザイン I [BC留學生用]		担当者名	大平 真紀子			○		
			実務経験との関連	専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせ実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、口頭発表を行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

#### <教科書>

久保田学（2018）「留學生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンター

#### <参考書>

ゲン・テュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職すること (1)	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職すること (2)	留學生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
5	自分がどういう人かを考える (1)	人生曲線、自分史
6	自分がどういう人かを考える (2)	コンピテンシー
7	自分がどうしたいかを考える (1)	未来史
8	自分がどうしたいかを考える (2)	日本との関係 (つながり)
9	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
10	業界を知る (1)	業界研究の視点、基本的な方法
11	業界を知る (2)	業界研究の実践
12	企業を知る (1)	企業研究の視点、基本的な方法
13	企業を知る (2)	企業研究の実践
14	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文

科目コード	14002	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアデザイン I [健康科学科用]	担当者名	畑島 紀昭	○					
		実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

#### <授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理および社会保障制度について理解し、その内容を具体的に説明することができる。また、柔道整復師の役割を踏まえた自己分析を行い、自身の適性や課題を明確にした上でキャリアプランを立案することができる。さらに、基本的なビジネスマナー（挨拶、言葉遣い、態度等）を実践することができ、業界動向や職務内容に関する知識をもとに適切な進路選択を行うことができる。

#### <授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出：50%

#### <教科書>

なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探る）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について

科目コード	14003	区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [企業]	担当者名	佐藤 典子、眞鍋 芳江、鈴木 真理子、濱嶋 幸司、橘高 真紀子			○			
		実務経験との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必須

#### <授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ、就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインⅡでは働くことの意義や大学での学びが社会にどう関連するか考える。

#### <授業の到達目標>

業界分析や職種研究によって、将来の自分のキャリアを強くイメージできるようになる。また大学での学びが社会でどのように役に立つか自分の言葉で話せるようになる。

#### <授業の方法>

講義やグループディスカッションなど。毎回1つもしくは2つのテーマを設ける。（2つの場合は、AとBの50分程度の授業を続けて実施することもある）

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度60% 提出物40% 提出物へのフィードバックについてはグーグルクラスルームを活用する。優秀な提出物については、授業中に共有（匿名で）することもある。

#### <教科書>

随時印刷物を配布する。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	A. 初回ガイダンス ¥nB. 3年生秋からの就職活動	キャリアデザインⅡとなるので、改めて初回ガイダンスで授業のルールや心構えについてキャリアセンター職員からアドバイスを提供する。秋冬の就活スケジュールについて確認する。
2	履歴書作成	自分で履歴書作成ができるように書き方を指導する。
3	自己PRとガクチカ	自己PRとガクチカの違いについて知り、実際に書いてみる。¥n
4	A. 翔志会の話の聴いてみよう ¥nB. 志望動機について	翔志会のメンバーに登壇してもらい、経験談から学ぶ。外部講師から志望動機の書き方を学ぶ。
5	理想の生活について	自らキャリアをデザインしていくために、まず理想の将来について言語化できるようになる。
6	自己PRに生成AIを駆使する	これまでイメージできていた自己イメージに基づいて、自分の魅せ方を言語化できるようになる。AIをどのように有効活用するかも学ぶ。
7	企業のためのオープンキャンパス準備①	企業のためのオープンキャンパスにご来学される企業群から自分に合いそうな企業をピックアップする。
8	企業のためのオープンキャンパス準備②	ワールドカフェでのディスカッションを体験する。名刺の受け渡しや、ビジネスマナーについても知見を深める。
9	ビジネスメール	社会人になってビジネスメールが書けるように練習をする。
10	卒業生とのディスカッションによる仕事研究	3～4か所の教室に分かれて、各企業で活躍する卒業生から小さなグループで学ぶ。
11	社会で役立つホスピタリティ	ホスピタリティ業界に特化し、外部講師の講演を聴く。
12	選考突破研究	選考のポイントについて現役の人事担当者から聞いて、今後の戦略を立てる。
13	グローバルな視点を持つ	外資系企業の現状や、青年海外協力隊の体験を聞き、グローバルな視野を持つ。
14	学長講話	大橋学長より社会に出るにあたっての心構えや、人生において大切なことを学ぶ。

科目コード	14003	区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアデザインⅡ [教職]	担当者名	練苧 千之、坂根 清貴、奥山 優、安井 正郎、千葉 照久、大崎 卓己、延原 まどか、目木 美奈子、岩田 清隆、本藤 展康、中野 隆重			○			
		実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	第3クォーター、第4クォーター	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

このキャリアデザインⅡは、子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を希望する学生対象である。このクラスでは、教員を選択し、働くことの意義や自己理解を深める中で、教員になるために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、より実践的な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

### <授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。Yn 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。Yn 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。 Yn ・課題についてグループディスカッションを行う。 Yn ・課題についての演習を行う。 Yn ・レポートの提出。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

### <教科書>

特に指定しない。

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員採用試験合格への取組 Yn キャリアデザインの後期の予定 Yn 個別面談・学習進行表	合格に向けての心構え～これからの努力Yn *対策講座についてYn *個別面談・学習進行表について
2	教師に求められる資質や能力②Yn 「保護者対応」	・保護者に対応するために必要な心構えと力Yn ・チーム学校体制の中での役割Yn *講話・グループディスカッション
3	教育課題への対応① Yn 「時事問題への対応」～情報モラル教育～	情報モラル教育の理解とその対応Yn *講話・グループディスカッション
4	出前講座Yn 「学校現場が必要としている教員像 ～授業づくり～」	主体的・対話的で深い学びの実現Yn ・広島県教委「ワークショップ」
5	教育課題への対応② Yn 「人権尊重の教育」～いじめ・児童虐待・LGBT～	人権尊重の教育の基本的な考え方と取組Yn *講話
6	合格の秘訣を探る①Yn 「教採合格者の体験」	教員採用試験合格者の体験発表Yn *「私はこうして合格した」
7	合格の秘訣を探る②Yn 「個人面接・場面指導」	教採における個人・集団面接の概要と留意点Yn *先輩の個人面接・場面指導
8	合格の秘訣を探る③Yn 「模擬授業」	教採における模擬授業の概要と留意点Yn *先輩の模擬授業
9	合格の秘訣を探る④Yn 「集団面接・集団討論」	教採における集団討論等の概要と留意点Yn *先輩の集団面接・集団討論
10	講話①Yn 「生徒指導への対応」	生徒指導についての基本的な考え方と実践事例Yn *中学校長の講話
11	講話②Yn 「学級集団の育て方」	学級集団づくりについての基本的な考え方と実践事例Yn *小学校長の講話
12	教育課題への対応③Yn 「第4期教育振興基本計画について」	第4期教育振興基本計画の概要
13	教育課題への対応④Yn 「学校安全」	学校安全の取組の必要性Yn *講話・グループディスカッション
14	教採に向けた取組の成果と課題	教員採用試験に向けた取組の振り返りYn 来年度に向けての方策Yn 春季休業期間の学習 Yn レポート試験

科目コード	14003	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアデザインⅡ [公務員]	担当者名	森 利治	○					
		実務経験との関連	担当者の中で民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

このキャリアデザインⅡ（公務員）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることとなり、職種を前期で絞ったうえで、警察官、消防士、自衛官、市役所、県庁職員など実際現場で活躍されている方などをお招きして実際の業務を生講義していただき、学生が調べてきたことと実際との相違を学び、4年生から始まる本試験に向けて仕事の意味を理解した上で試験に臨んでいくことを目的とする。

### <授業の到達目標>

1. 公務員採用試験に合格するために、キャリアデザインⅠで取り組んだ自己分析をもとに集団面接形式での実践演習を行い、実際の面接試験に向けての動機付けになるようにする。2. 各職種で活躍されている外部講師の方からの講話、合格を勝ち取った先輩方の体験談を聴いて、自分の進みたい道に対するの覚悟を決め受験に対するモチベーションを高める。

### <授業の方法>

講義、講演会、論文対策、模擬面接などの形式で実施する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験70%、単元別レポート15%、授業に取り組む姿勢15%

### <教科書>

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	後期の目標を設定する	志望先を考える。勉強と部活動、アルバイトなどのバランスについてスケジュールを立てる。
2	実践演習（1）	面接試験について（集団面接①）
3	講話「現場が求める人材」（1）	消防士の仕事内容（1）
4	実践演習（2）	面接試験について（集団面接②）
5	講話「現場が求める人材」（2）	地方の警察官の仕事内容について
6	合格の秘訣を探る（1）	公務員試験合格者の体験談（1）
7	実践演習（3）	面接試験について（集団面接③）
8	講話「現場が求める人材」（3）	刑務官の仕事内容について
9	合格の秘訣を探る（2）	公務員試験合格者の体験談（2）
10	講話「現場が求める人材」（4）	県職員の仕事内容について
11	合格の秘訣を探る（3）	公務員試験合格者の体験談（3）
12	講話「現場が求める人材」（5）	自衛官の仕事内容について
13	講話「現場が求める人材」（6）	消防士の仕事内容について
14	講話「現場が求める人材」（7）	市職員の仕事内容について

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ [幼保]		担当者名	檜 壽 日佳、高崎 展好、 三好 啓子、宮原 舞			○		
			実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

キャリアデザインⅡ [幼保] は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

#### <授業の到達目標>

① 保育職を志望する理由を整理し、自らの言葉で具体的に説明することができる。② 保育職に必要とされる資質や能力を理解し、自身の強みや課題として整理することができる。③ 自己分析を通して自己理解を深め、将来の進路や生き方について具体的に表現することができる。

#### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明及び課題についてのグループワーク①・自己課題に応じたピアノ実技②・課題についての演習

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	職業選択と就職活動の意思確認と合格までの見通し	授業の目的・意義・概要①児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	自己分析	自己分析シートを活用した自分の強みと課題
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	進路の選択	先輩の講話
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
7	就職説明会、インターンシップへの参加準備	就職説明会・インターンシップの申込、参加準備、マナー、情報の整理
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	合同就職説明会への参加	保育職合同説明会及び保育ICT見本市への参加
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	面接	面接のマナーと演習
12	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌い（6）
13	後期のまとめと採用試験の準備	後期まとめと受験計画の作成②長期休業期間の就職活動について
14	ピアノ実技（7）	ピアノ演習・弾き歌いのまとめ

科目コード	14003		区 分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	キャリアデザインⅡ [BC留學生用]		担当者名	大平 真紀子			○		
			実務経験との関連	専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

#### <授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え、能力を獲得する。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。Yn課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

#### <教科書>

久保田学（2018）「留學生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンター

#### <参考書>

ゲン・チュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	前期振り返り	前期の振り返りと後期の授業概要Ynインターンシップや業界・企業研究などの成果の共有
2	就職活動におけるマナー (1)	基本的な身だしなみ
3	就職活動におけるマナー (2)	敬語、電話・メールの日本語表現
4	インターネットを活用した就職活動の展開	就活サイトの活用法、各種データベースの利用方法
5	企業を知る (3)	個別企業の事例に基づく企業理解 (外部講師予定)
6	業界・企業を選ぶ	業界・企業選びの方向性
7	履歴書とエントリーシート	書類提出の意味、基本的な書き方・注意点
8	日本の税制と福利厚生	給与と福利厚生、所得税
9	自己分析	自分の「これまで」と「これから」を改めて見つめ直す
10	自分のことを他人に伝える	自己PRのための日本語表現
11	面接対策 (1)	基本的な手順、よく聞かれる質問
12	面接対策 (2)	面接のロールプレイング
13	在留資格について	卒業後の在留資格の説明
14	まとめ	全体の総括と補足説明

科目コード	14003	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアデザインⅡ [健康科学科用]	担当者名	畑島 紀昭	○					
		実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	1.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

### <授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

### <授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理および社会保障制度について理解し、その内容を臨床現場や実務に関連付けて説明することができる。また、進路別の就職活動スケジュールを理解し、自身のキャリアプランを具体化するとともに、進路選択に向けた行動計画を立案・実行することができる。さらに、実際の現場で求められる柔道整復師の知識・技能・モラルについて理解し、基本的なビジネスマナーを実践するとともに、主体的に進路選択を行うことができる。

### <授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出：50%

### <教科書>

なし

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	キャリアプランの設計①	前期授業および夏季休暇の省察就職活動に向けたキャリアプランの設計
2	職業倫理及び関係法規①	健康保険制度の概要および不正請求について
3	職業倫理及び関係法規②	業務におけるリスクマネジメント
4	社会保障制度①	関連企業講話「社会保障費から読み解く本邦の社会保障制度」
5	社会保障制度②	関連企業講話「少子高齢化が進む日本で接骨院が果たすべき役割」
6	社会保障制度③	関連企業講話「老齢年金を始めとした各種年金制度の概要」
7	社会保障制度④	関連企業講話「障がい者への福祉サービスを始めとした社会福祉」
8	社会保障制度⑤	企業関連講話⑤「公的扶助（生活保護）制度」
9	グループ討議①	競技スポーツ分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
10	グループ討議②	医療分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
11	グループ討議③	介護・福祉分野で柔道整復師が活躍する方策を考える
12	就職セミナー①	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の説明を聞く。
13	就職セミナー②	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、興味のある企業の方と面談する。
14	キャリアプランの設計②	自分自身のキャリアプランを他者と共有する

科目コード	14001	区 分	教養			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアサポート [企業]	担当者名	佐藤 典子、濱嶋 幸司、戸田 晃大、橘高 真紀子			○			
		実務経験との関連	担当者の中で一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

このキャリアサポート（企業）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。企業人事や卒業生から業界・職種説明を聞き、自分の就職先企業の選択肢を増やす。また、就職活動だけでなく、社会に出てすぐに役立つスキルやコミュニケーション方法を習得することも目標とする。基本的に対面の授業となり、参加することで就職活動を進めていくことに直結する内容となる。

#### <授業の到達目標>

1) 企業就職を希望する学生が就職活動を進め、納得した進路決定をする。2) ビジネスマナーの知識を身に付け、実践できるようになる。

#### <授業の方法>

グループワーク・ロールプレイ・学内企業説明会への出席。

#### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度 60%、内容理解を診断するための提出物や課題レポートなど 40%

#### <教科書>

随時配布物を配る。

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	キャリアプランを見据えた企業選びをするための方法を学ぶ
2	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
3	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
4	面接対策	面接のポイントを学び、頻出質問に対する回答を作成する（オンデマンド回）
5	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
6	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
7	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
8	就活・ビジネスマナー	就職活動のマナー全般の知識習得・実践
9	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
10	将来のマネープラン設計	生命保険会社勤務の卒業生から将来のマネープラン設計について学ぶ
11	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
12	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
13	卒業生座談会	卒業生から現在の仕事について働き方や遣り甲斐などを聞き、自分のキャリア設計に役立てる
14	社会人の人間関係	人間関係構築に役立つアサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ

科目コード	14001	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアサポート [教職]	担当者名	本藤 展康、目木 美奈子、岸本勝義、千葉 照久、奥山 優、安井 正郎、練苧 千之、岩田 清隆	○					
		実務経験との関連	担当者の中で小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

### <授業の到達目標>

・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができるようになる。Yn・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができるようになる。Yn・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができるようになる。

### <授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明 ・課題についてのグループ協議Yn・課題についての演習 ・Googleクラスルームによる課題管理

### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

### <教科書>

特に指定しない

特に指定しない

### <参考書>

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教員採用試験合格に向けてYn教員採用試験の事務手続きYnキャリアサポートの概要Yn社会人のマナー	採用試験合格に向けた取り組みについてYn提出願書の記入方法や注意事項Yn調査票の記入・提出 等Yn立ち振る舞い、服装とあいさつ
2	自己アピールの仕方Yn自己PR作成について	自己アピールの仕方 Yn自己PR作成のこつ・自己PR作成Ynグループで自己アピール演習
3	第4期教育振興基本計画についてYn学習進行表	第4期教育振興基本計画の概要Ynグループに分かれて集団討論 Yn学習進行表を基にした情報交換
4	教育現場の課題 1 Yn「いじめ・不登校への対応」Yn <オンデマンド授業>	いじめ・不登校への対応についての講義Yn自分が取り組むことについてのレポート
5	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方Yn自分の考えをわかりやすく伝える手立て
6	学長講話	進路に向けてのメッセージ
7	受験に際しての心構えYn個人面接の攻略法	一次試験（二次試験）に臨む心構えYn聞き手を意識した回答の仕方Yn I P Uに関する質問への回答の仕方
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際Yn現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題 2 Yn「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態Yn複数の受験者との討論の進め方Yn課されるテーマの過去問の分析
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要Yn先輩の模擬授業（VTR視聴） Yn学習指導案の書き方と模擬授業の実際
12	教育現場の課題 3 Yn「現行学習指導要領から次期学習指導要領への動き」	主体的・対話的で深い学びYn令和の日本型学校教育Yn次期学習指導要領のめざすもの
13	実践に即した面接演習	授業に関する面接対策Yn評価の観点を意識した面接の仕方・展開Yn面接講座の仕上げ
14	まとめYn最終レポート	本講座のまとめをする。Yn最終レポートの作成 課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」（900字 60分）

科目コード	14001	区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアサポート [公務員]	担当者名	横内 浩平	○					
		実務経験との関連	民間教育機関（公務員予備校等）教員としての実務経験がある教員が進路選択、キャリアプランなどについて指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

#### <授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

#### <授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

#### <教科書>

特に指定なし

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
9	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
10	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
11	二次試験対策 (4)	集団討論・集団面接等 (4)
12	二次試験対策 (5)	集団討論・集団面接等 (5)
13	二次試験対策 (6)	集団討論・集団面接等 (6)
14	二次試験対策 (7)	集団討論・集団面接等 (7)

科目コード	14001	区 分	教養科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	キャリアサポート [幼保]	担当者名	檜 日佳、高崎 展好、 三好 啓子、宮原 舞	○					
		実務経験との関連	幼稚園教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職・保育等について指導する。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

#### <授業の到達目標>

① 保育者として求められる資質や能力について理解し、自らの進路目標を明確に説明することができる。② 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技の基礎的技能を身につけ、実践することができる。③ 志望する自治体や法人の採用試験に向けて、必要な準備を行い、自身の考えや強みを適切に表現することができる。

#### <授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認	授業の目的と概要①児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	合格までの計画	先輩の講話①将来を見通した長期計画と短期計画
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	願書の作成	願書記入のマナー、自分の強みを生かした願書作成
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	願書の送付	封筒の書き方、郵送の方法①メール提出のマナー
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	面接（1）	集団面接と個人面接
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	面接（2）	集団討論の方法と演習
12	ピアノ実技（6）	ピアノ実技・弾き歌い（6）
13	学びのまとめ	合格までの就職活動①保育職のキャリア形成
14	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ

科目コード	14001	区分	教養科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアサポート [BC留学生用]	担当者名	大平 真紀子、片上 摩紀			○			
		実務経験との関連	専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

#### <授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

#### <授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

#### <授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

#### <成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

#### <教科書>

#### <参考書>

#### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析 (1)	人生曲線、自分史
5	自己分析 (2)	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究 (1)	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究 (2)	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析 (3)	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究 (3)	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策 (1)	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策 (2)	面接のロールプレイング
14	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて

科目コード	13101		区分	教養			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	日本国憲法 [教員免許希望者用週間オンデマンド]		担当者名	沖野 大輔			○		
			実務経験との関連	一般企業経験者、隣接法律職としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

### <授業の概要>

人間が幸せに生きていくためには、お互いの権利を尊重しあうことが大切です。現に存在する様々な人権課題について具体的に学び、考えることができる力を身に付けいくにはどのようにしたら良いか考えていきます。

### <授業の到達目標>

①人間が所有する権利の種類を説明することができる。②自分と他者の権利を尊重するためにはどのようにしたら良いか考えることができる。③人権を侵害した時の対処方法を説明することができる。

### <授業の方法>

講義方式で進行する。教科書を使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。授業の最後に課題を提出する。

### <成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元ごとに課題を提出する（4回×15点=60点）、最終回の課題（40点）①課題の提出については、単元ごとにフィードバックを行う

### <教科書>

使用しない

神村早織、森実(2019)人権教育への招待:ダイバーシティの未来をひらく解放出版社

### <参考書>

森実(2013)知っていますか?人権教育一問一答第2版(知っていますか?一問一答シリーズ)解放出版社

岩満賢次(2023)社会連携要論DTP出版

### <授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	総論	人権を守る仕組みとしての社会保障の仕組み(世界人権宣言、日本国憲法)
2	障害者と人権①	障害者と権利保障
3	障害者と人権②	障害者の地域生活
4	障害者と人権③	特別支援教育とインクルーシブ教育
5	高齢者と人権①	高齢者への人権保障
6	高齢者と人権②	要介護者への支援の保障
7	高齢者と人権③	要介護者のための支援保障
8	子どもと人権①	子どもへの権利保障
9	子どもと人権②	子育てとその支援の保障
10	子どもと人権③	子どもの取り巻く環境の変化とその生活保障
11	若者と人権①	ひきこもり状態のある人の生活保障
12	若者と人権②	労働中の事故の保障
13	若者と人権③	みんなが幸せに生きていくための福祉教育を考える
14	講義のまとめ	講義全体を通じて、人権保障のあり方と教育への導入を考える